

I 調査の概要

1 調査目的

この調査は、現在あるいは今後解決すべき課題について、県民の県政に対する意識・要望などを的確に把握し、県政施策の企画・立案及び県政執行上の参考に資することを目的とする。

2 調査項目

- (1) 暮らしの変化について*
- (2) 県政への要望について*
- (3) 野生鳥獣の保護管理について
- (4) がん対策について
- (5) 子育てに関する意識について
- (6) 食の安全・安心について
- (7) 地域活動について
- (8) 犯罪と治安対策について (*印は時系列調査)

3 調査設計

- (1) 調査地域 栃木県全域
- (2) 調査対象 満20歳以上の男女個人
- (3) 標本数 2,000
- (4) 抽出方法 層化二段無作為抽出法
- (5) 調査方法 郵送法（郵送配布－郵送回収）
- (6) 調査時期 平成23年5月19日～6月10日

4 調査機関

社団法人 新情報センター

5 回収結果

回収数（率） 1,363（68.2%）

6 報告書の見方

- (1) 比率はすべて百分比で表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出した。このために、百分比の合計が100.0%にならないことがある。
- (2) 基数となるべき実数はnとして掲載した。その比率は件数を100%として算出した。
- (3) 1人の回答者が複数回答で行う設問では、その比率の合計が100%を上回ることがある。
- (4) 質問の選択肢の回答比率(%数字)の2つを合計した『○○○』の%数字が、各選択肢の%数字の合計と合わないことがある。これは、2つの選択肢の回答者数を全体で割って%数字を算出しているためである。具体的な例としては、以下の通りである。

「あまり感じていない」(24.4%)と「まったく感じていない」(2.3%)の2つの%数字を単純に合計すると、『感じていない(計)』は26.7%になる。しかし、回答者数は「あまり感じていない」が332人、「まったく感じていない」が31人なので、2つの人数を合計した『感じていない(計)』は363人となり、全体の母数(1,363人)に対する割合は26.6%となる。

なお、前年度以前の調査結果のグラフや記述については、回答比率(%数字)の2つを単純に合計して『○○○(計)』の%数字を記載している場合がある。

- (5) 図表・本文では、スペースの都合等により回答選択肢を省略して表記している場合がある。
- (6) クロス集計では、分析軸の「無回答」を掲載していないため、分析軸における各項目のnの合計値と全体の数値とが合わない場合がある。
- (7) クロス集計時に、nが小さい数字になる場合は統計的誤差が生じる可能性が高いので注意が必要である。
- (8) この調査の標本誤差は次の式によって得られる。但し、信頼度を95%とする。

$$b = 2 \sqrt{2 \frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(1-P)}{n}} \quad \left(\begin{array}{ll} b = \text{標本誤差} & N = \text{母集団数} \\ P = \text{回答比率} & n = \text{比率算出の基数 (サンプル数)} \end{array} \right)$$

次に、本調査の標本誤差の早見表をあげる。

| 回答比率(P) 基数(n) | 10%または 90%前後 | 20%または 80%前後 | 30%または 70%前後 | 40%または 60%前後 | 50%前後 |
|------------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|---------|
| 1,363人 | ±2.30% | ±3.06% | ±3.51% | ±3.75% | ±3.83% |
| 1,000 | ±2.68% | ±3.58% | ±4.10% | ±4.38% | ±4.47% |
| 800 | ±3.00% | ±4.00% | ±4.58% | ±4.90% | ±5.00% |
| 400 | ±4.24% | ±5.66% | ±6.48% | ±6.93% | ±7.07% |
| 200 | ±6.00% | ±8.00% | ±9.17% | ±9.80% | ±10.00% |
| 100 | ±8.49% | ±11.31% | ±12.96% | ±13.86% | ±14.14% |

※上表は $\frac{N-n}{N-1} \doteq 1$ として算出している。

<注/この表の見方>

例えば、「ある設問の回答者数が1,363人あり、その設問中の選択肢の回答比率が、60%であった場合、その回答比率の誤差の範囲は最高でも±3.75%以内(56.25%~63.75%)である」とみることができる。